

# あいのり

## Monthly

2026.3.31

### 3月のマーケット概要

2月末日に米国とイスラエルが、イランの核開発を遅らせ、その弱体化を目的に大規模な攻撃を開始したことにより、3月の金融市場は大きく影響を受けました。攻撃開始直後にはアリ・ハメネイ最高指導者並びに重要幹部を殺害したものの、イランはIRGC（イスラム革命防衛隊）などが中心に報復攻撃を始め、イスラエルや米軍拠点、さらには中東全域にその被害が拡大しています。経済面ではホルムズ海峡の実質封鎖からくる原油価格の高騰が世界経済に大きな影響を及ぼすため、その動きにマーケット参加者の注目が集まりました。米地上部隊投入により長期化が懸念されていますが、米国側は、11月3日の中間選挙などを見据えると、早期に決着をつけたいと望んでいると推測され、マーケットはそれを期待して株価などは下方で支えられている状態です。ガソリン価格の高騰で更にインフレが高まるという観測、並びに中旬に開催されたFOMCでは政策金利が現状維持ではあったものの、パウエル議長の発言がかなりタカ派的であったことから米国金利は上昇し、下旬には米10年金利が4.4%を超える水準まで上昇しました。

日本では日銀金融政策決定会合が開催され、予想通り政策金利引き上げを見送りましたが、先行きの利上げ継続姿勢をあらためて示す内容でした。

今月は、原油など資源関連以外の、世界中の株式はじめあらゆる投資商品が大きく下落しました。ゴールドについても、米金利の上昇と景気後退懸念による株式市場の下落から、これまで大きく上昇してきた分、利益確定などのまとまった売りが出ました。

今後は、イラン情勢の長期化懸念と既存の懸念材料であるプライベートクレジット市場の信用収縮、K字型経済、AI浸透による雇用市場の緩みと相まって、景気減速から、さらに景気後退へとマーケットが織り込んでいくかが焦点になると考えます。

弊社ファンドは、キャッシュとゴールドの比率を増やしてリスクを抑えた慎重スタンスを継続しておりましたが、今回のゴールドの急落もあり基準価額は月間で比較的大きな下落となりました。暫くはホルムズ海峡実質封鎖の行方とその影響度合いが見えるまでは変動率が高まる可能性があります。但し現段階では、米国経済は未だ堅調さを維持しており、景気後退を避けることが出来れば、最終的に年末に向けて株式市場は上昇すると考えております。引き続きマーケット動向を注視しながら、丁寧にエントリー局面を見極めていきたいと考えます。



左記のQRコードよりXアカウントにアクセスいただけます。  
パリミキアセットマネジメント【公式】  
@PM.Asset

(2026年4月3日)

パリミキアセットマネジメント  
CIO  
宇野 隆一郎



PARIS MIKI ASSET MANAGEMENT



# 2026 年 年末にかけての相場の見通し (2026.4.1)

2026 年末の目標数値を、引き続き年初に掲載した以下の内容とします。

- ・ S&P500 (米国) : 6,950p (2025 年末終値比  $\pm 0\%$ )
  - ・ 日経平均 (日本) : 55,400 円 (同  $+10\%$ )
- ※ただし、両指数とも、年間で上下  $\pm 10\sim 15\%$  の変動を想定。

## ■ 米国株【S&P500 : 6,950p (2025 年末終値比 $\pm 0\%$ )】について

年初で掲げた「年末の見通し」では米国株が上昇する 8 つのプラス根拠と 6 つのネガティブ根拠を挙げた上で、変動率は高いものの、2026 年末には昨年末と同水準程度としました。

(年初の見通し : [https://pmam.co.jp/assets/2026/01/V5\\_20251230\\_ainori\\_monthly.pdf](https://pmam.co.jp/assets/2026/01/V5_20251230_ainori_monthly.pdf))

この 3 か月間で新たに出現した主な材料は、①プライベートクレジット市場からくる信用収縮懸念と、②3 月に勃発した米・イスラエルの対イラン攻撃でした。

これらの 2 つは、年初に掲げた根拠に対して以下のような影響があると考えます。

### ① プライベートクレジット懸念

最終的には、大きな信用不安に発展する可能性も否定できないですが、まずは今後の生成 AI の設備投資の調達が以前より積極的にできなくなる可能性が出てきました。これは今までの AI 関連設備投資が、ハイパースケーラーによる本業のキャッシュフローに加え、大きな部分をデット (借入) により賄われていたことから、今後信用収縮により、資金調達が難しくなる可能性があります。

### ② 対イラン戦争

今回の戦争で問題となるのは、「ホルムズ海峡が実質封鎖されることにより、原油などの調達が困難になり、世界中でインフレ・金利上昇懸念が台頭してきた」という点です。年初のマーケットは、FRB による利下げを年内 2 回と想定していたものが、現状では 0 回、さらには利上げが期待される可能性も出てきました。インフレによる金利上昇は、消費減退から経済活動を鈍らせ、景気減速を招き、また現在価値で算出した株式価値が低下し株価にはネガティブに働きます。

このように信用収縮不安があり、景気減速懸念があってもインフレを加速してしまうため、FRB は利下げに踏み切れないということがさらなる景気悪化を招く悪循環となります。

今後、米国とイランとの間で何らかの決着がつかず、長引く場合は、さらなるマーケットの下落は想定しないといけなかもしれません。値動きの観点からも、3 月末で中期の上昇トレンドが終了した可能性があり、その場合、9~10 月頃まで調整下落が続く可能性があります。

ただし「その後は年末まで上昇し、年初の水準まで戻る」というのがメインシナリオで、その場合、来年の相場はより高く推移すると見ております。

年初の時点では、これら 2 つの材料はまだ顕在化していなかったものの、インフレが継続する可能性や、PER（収益対比株価）が高い水準にあったことを勘案し、年内の相応の下落は当初より想定していたため、今回は見通しの変更を行っておりません。

## ■ 日本株【日経平均（日本）： 55,400 円（同 +10%）】について

日本株につきましては、この 3 か月で年初に掲げていなかった解散総選挙が実施され、与党の圧倒的勝利で終わったという追加の材料がありました。それ以外には、根拠の内容に大方変更はありません。引き続き日本株については、相対的に良いと考えています。

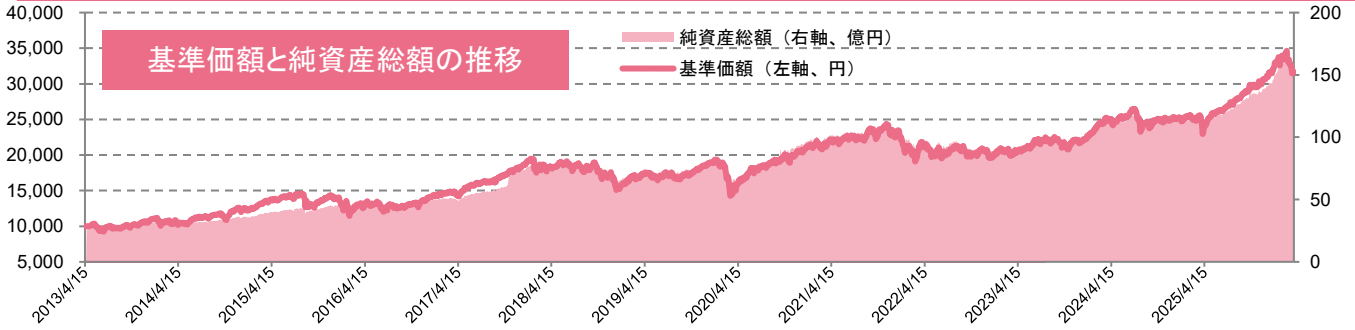
欧米の投資家はその国の政治、特に国のトップの素養について重視する傾向があり、高市政権誕生により、日本が変わるかもしれないという期待から最近日本株を見直してきているということを聞いております。日本は資源を他国に依存している割合が高いため、ホルムズ海峡の実質封鎖の長期化は影響が大きくなる可能性があります。しかし、相対的に備蓄量が多いことから、原油 120 ドルを超えるような状態が長期化しない限りは、現段階では日本株の上昇圧力に問題ないのではと考えます。従いまして、日本株についても見通しは変更せず、年末の日経平均の水準「年初対比 10% 高の 55,400 円」を維持します。



パリミキアセットマネジメント  
CIO  
宇野 隆一郎

コードモファンド  
変幻自在ずーっとおまかせ

基準価額と純資産総額の推移



期間別騰落率 (%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	年初来	1年	3年	5年	10年	設定来
-8.07%	0.25%	8.67%	0.25%	24.17%	54.48%	45.98%	138.45%	215.56%
					(複利年率) (15.59%)	(複利年率) (7.86%)	(複利年率) (9.07%)	(複利年率) (9.27%)

コードモファンド概況

基準価額	31,556円	設定日	2013年4月15日
純資産総額	15,744百万円	信託期間	無期限
ボラティリティ(1年)	10.22%	決算日	毎年2月25日 (休業日の場合は翌営業日)
投資信託財産の構成比率	パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンド: 99.88% 現金等0.12:% (合計: 100.00%)		

コードモファンドにかかわる費用

運用管理費用 (信託報酬)	年1.10% (税抜1.00%) マザーファンドの組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担: 年1.75±0.5% 程度 (税込)
------------------	---

パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンド ※2025年9月1日設定

【3月の運用コメント】

マザーファンドの基準価額は月間で▲7.98%、年初来では+0.53%となりました。  
(1年リターン: 24.17%、ボラティリティ(1年): 10.22%、シャープレシオ: 2.30) ※コードモファンド

個別ファンドの騰落率については、上昇に寄与したファンドはありませんでした。一方、下落の影響が大きかったものは、ピクテ・ゴールド (為替ヘッジ付) が騰落率▲12.56%、日本株式のモーラントが同▲8.16%、金鉱株式のコンウェブ・ゴールドが同▲21.39%、インド株式のチカラ・インディアンが同▲15.34%、日本株式のニッポン・グロースが▲7.01%などでした。

3月中の売買は、日本株式ファンド、新興国株式ファンドを中心に売却を行いました。これによりキャッシュ比率は約32% (前月比約+11%) でした。

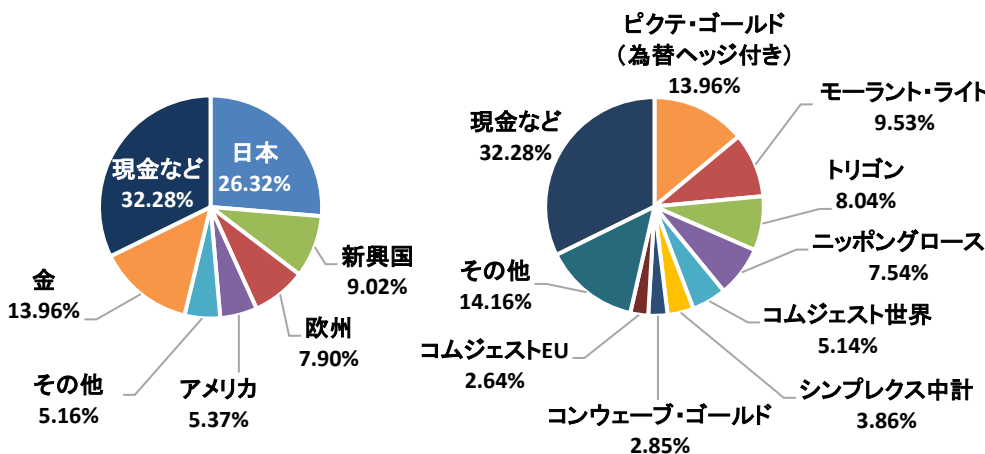
為替が対ドルで約4円 (+2.61%) 円安へ、対ユーロでは約0.5円 (▲0.22%) 円高へ推移したことにより、ポートフォリオのパフォーマンスをヘッジ後で0.27%引き上げたこととなります。

現状の外貨資産リスク (25%) に対する為替ヘッジ率は、17%で、全体のポートフォリオの内、ヘッジ後の外貨リスクは21%です。

パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンドの概況

純資産総額	15,962百万円	組入ファンド数	全18本
-------	-----------	---------	------

資産構成比率 (左: 国別、右: ファンド別)



組み入れファンドTOP5  
基準価額の前月比

ピクテ・ゴールド (為替ヘッジ付き)	-12.56%
モーラント・ライト	-8.16%
トリゴン	-6.90%
ニッポングロース	-7.01%
コムジエスト世界	-7.26%

# 浪花おふくろファンド

じっくりどっしり長期運用

## 【3月の運用コメント】

基準価額は月間で▲8.93%下落し、年初来では▲2.99%となりました。  
 (1年リターン：16.16%、ボラティリティ(1年)：12.35%、シャープレシオ：1.25)

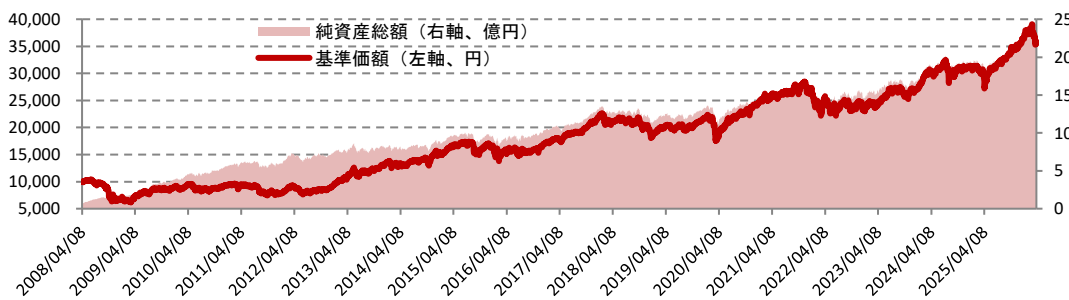
個別ファンドの騰落率について、上昇に寄与したファンドはありませんでした。一方、下落の影響が大きかったものは、金鉱株式のコンウェーブ・ゴールドが騰落率で▲21.39%、日本株式のシンプレクス中計が同▲10.37%、コムジェスト世界が同▲7.26%、東欧株式のトリゴンが同▲6.90%、インド株式のチカラ・インディアンが同▲15.34%などでした。

3月の売買は、日本株式ファンド、世界株式ファンドなどを中心に大きく売却を行いました。一方、僅かに日米ETFを追加しました。これによりキャッシュ比率は約27%（前月比約+11%）でした。

為替が対ドルで約4円(+2.61%)円安へ、対ユーロでは約0.5円(▲0.22%)円高へ推移したことにより、ポートフォリオのパフォーマンスをヘッジ後で約0.56%引き上げたこととなります。

現状の外貨資産リスク(41%)に対する為替ヘッジ率は10%で、ヘッジ後の外貨リスクは37%です。

### 基準価額と純資産総額の推移



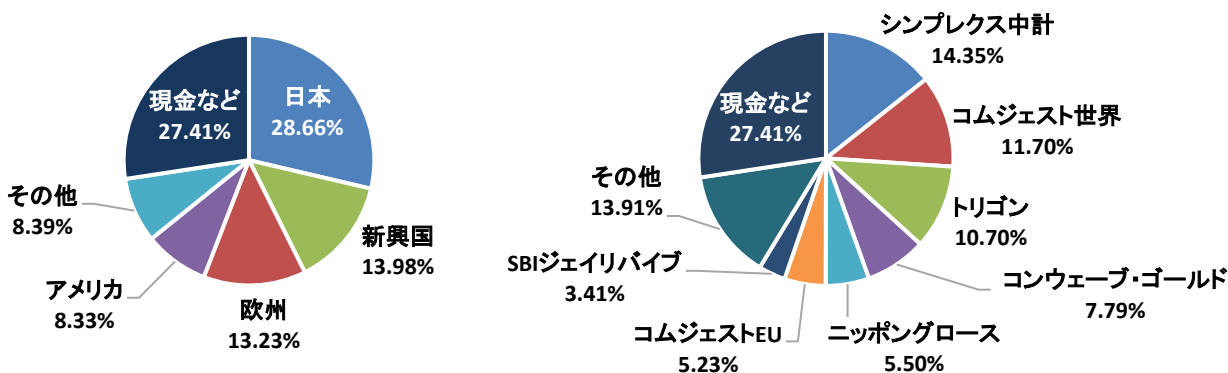
組み入れファンドTOP5  
基準価額の前月比

シンプレクス中計	-10.37%
コムジェスト世界	-7.26%
トリゴン	-6.90%
コンウェーブ・ゴールド	-21.39%
ニッポングローブ	-7.01%

### 浪花おふくろファンド概況

基準価額	35,420円	設定日	2008年4月8日
純資産総額	2,123百万円	信託期間	無期限
ボラティリティ(1年)	12.35%	決算日	毎年3月3日(休業日の場合は翌営業日)

### 資産構成比率(組入ファンド全14本)(左:国別、右:ファンド別)



### 期間別騰落率(%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	年初来	1年	3年	5年	10年	設定来
-8.93%	-2.99%	5.13%	-2.99%	16.16%	45.77%	37.89%	122.01%	254.20%
					(複利年率) (13.37%)	(複利年率) (6.63%)	(複利年率) (8.30%)	(複利年率) (7.28%)

### 浪花おふくろファンドにかかわる費用

運用管理費用(信託報酬) 年0.99%(税抜0.90%)  
 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年1.65±0.5%程度(税込)

### コモファンド・浪花おふくろファンドにかかわる共通のその他費用・手数料

信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

設定・運用・販売は株式会社パブリックアセットマネジメント/金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2727号  
 ※比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

# 組入れファンドの投資銘柄

◆組入れファンドのうち、公開されている投資銘柄の組入れ比率TOP10を記載しております。

パリミキFOM=パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンド

SBIジェイリバイブ	パリミキFOM 浪花おふくろ	
日精エー・エス・ビー機械	日本	4.01%
扶桑化学工業	日本	3.92%
J C U	日本	3.89%
ドウシシャ	日本	3.82%
東京精密	日本	3.66%
サムコ	日本	3.59%
木村工機	日本	3.47%
サトー	日本	3.39%
S B S ホールディングス	日本	3.31%
サイゼリヤ	日本	3.02%

SBIジェイクル	パリミキFOM	
守谷輸送機工業	日本	3.95%
A e r o E d g e	日本	3.89%
トライアルホールディングス	日本	3.87%
湖北工業	日本	3.72%
M I C	日本	3.22%
技術承継機構	日本	3.20%
フルハンE P O	日本	3.02%
ワンキャリア	日本	2.94%
ビーイングホールディングス	日本	2.93%
令和アカウンティング・ホールディングス	日本	2.75%

SBIネクストジャパン	パリミキFOM	
トランザクション	日本	3.93%
トーカロ	日本	3.92%
第一工業製薬	日本	3.89%
富士紡ホールディングス	日本	3.84%
ジャパンマテリアル	日本	3.67%
前田工織	日本	3.58%
モリト	日本	3.27%
B u y S e l l T e c h n o l o g i e s	日本	3.26%
ラクスル	日本	3.24%
やまみ	日本	3.23%

モーラント・ライト	パリミキFOM	
Sumitomo Mitsui Financial	日本	3.30%
Inpex	日本	3.30%
Yokohama Financial Group Inc	日本	3.20%
Sumitomo Metal Mining Co Ltd	日本	3.20%
Dai-ichi Life Holdings Inc	日本	3.10%
Sumitomo Mitsui Trust	日本	3.10%
Honda Motor Co. Ltd	日本	2.90%
Sumitomo Electric Industries	日本	2.80%
Mitsubishi UFJ Financial Group	日本	2.70%
Mitsubishi Gas Chemical Co	日本	2.50%

シンプレクス中計 ※2	パリミキFOM 浪花おふくろ	
化学	日本	9.55%
化学	日本	8.46%
卸売業	日本	8.17%
機械	日本	7.28%
機械	日本	7.12%

ニッポングロース ※1	パリミキFOM 浪花おふくろ	
Sumitomo Mitsui Financial Group Inc	日本	7.51%
ITOCHU Corp	日本	6.36%
Mizuho Financial Group Inc	日本	6.22%
Mitsubishi UFJ Financial Group Inc	日本	6.11%
Penta-Ocean Construction Co Ltd	日本	5.48%

※1 ニッポングロースは投資銘柄TOP5のみ公表されてるため、公表されている投資銘柄TOP5を記載しております。

※2 シンプレクス中計は投資銘柄が公表されていないため、公表されている投資銘柄TOP5の投資セクターを記載しております。

NF日経225 ETF	浪花おふくろ	
アドバンテスト	日本	12.00%
ファーストリテイリング	日本	9.30%
東京エレクトロン	日本	7.40%
ソフトバンクグループ	日本	5.50%
T D K	日本	2.00%
ファナック	日本	2.00%
K D D I	日本	1.80%
中外製薬	日本	1.80%
信越化学工業	日本	1.70%
フジクラ	日本	1.50%

上場インデックスファンド日本高配当 ETF	パリミキFOM 浪花おふくろ	
日本たばこ産業	日本	8.10%
トヨタ自動車	日本	6.85%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	6.21%
ブリヂストン	日本	5.48%
キヤノン	日本	5.24%
三井住友フィナンシャルグループ	日本	4.53%
I N P E X	日本	4.12%
三菱商事	日本	3.73%
アサヒグループホールディングス	日本	3.10%
麒麟ホールディングス	日本	2.58%

東証スタンダードTOP20 ETF	浪花おふくろ	
沖縄セルラー電話	日本	8.71%
上村工業	日本	7.85%
フクダ電子	日本	7.82%
名村造船所	日本	6.88%
ヨネックス	日本	6.76%
M C J	日本	5.83%
アコム	日本	5.14%
フェローテック	日本	5.00%
日本マクドナルドホールディングス	日本	4.82%
ワークマン	日本	4.72%

コムジェスト世界	パリミキFOM 浪花おふくろ	
台湾セミコンダクター (T S M C)	台湾	8.40%
ジョンソン・エンド・ジョンソン	アメリカ	5.55%
マイクロソフト	アメリカ	5.20%
ビザ	アメリカ	4.90%
アルファベット	アメリカ	4.89%
リンデ	イギリス	4.47%
エア・リキード	フランス	3.88%
ロREAL	フランス	3.83%
S&Pグローバル	アメリカ	3.82%
エクスペリアン	イギリス	3.67%

ストーン・ヘイジ	パリミキFOM	
Alphabet	アメリカ	7.00%
ASML	オランダ	6.80%
L'Oreal	フランス	5.10%
GE Aerospace	アメリカ	4.90%
Mastercard	アメリカ	4.80%
Linde	イギリス	4.50%
Visa	アメリカ	4.40%
Eaton	アイルランド	4.40%
Broadcom	アメリカ	4.30%
Stryker	アメリカ	4.30%

State Street Utilities Select Sector SPDR ETF	パリミキFOM 浪花おふくろ	
NEXTERA ENERGY INC	アメリカ	12.69%
CONSTELLATION ENERGY	アメリカ	8.37%
SOUTHERN CO/THE	アメリカ	7.29%
DUKE ENERGY CORP	アメリカ	6.92%
AMERICAN ELECTRIC POWER	アメリカ	4.68%
SEMPR	アメリカ	4.37%
VISTRA CORP	アメリカ	3.90%
DOMINION ENERGY INC	アメリカ	3.80%
EXELON CORP	アメリカ	3.34%
XCEL ENERGY INC	アメリカ	3.32%

コムジェストEU	パリミキFOM 浪花おふくろ	
ASMLホールディング	オランダ	6.77%
シュナイダーエレクトリック	フランス	6.61%
インディテックス	スペイン	4.77%
SAP	ドイツ	4.75%
ロリアル	フランス	4.37%
エシロールルックスオティカ	フランス	4.06%
アルコン	スイス	4.05%
ノボネシス	デンマーク	4.03%
エア・リキード	フランス	3.94%
キングスパン・グループ	アイルランド	3.70%

IS MSCI ドイツ ETF	パリミキFOM 浪花おふくろ	
SAP	ドイツ	12.82%
SIEMENS N AG	ドイツ	10.71%
ALLIANZ	ドイツ	8.88%
DEUTSCHE TELEKOM N AG	ドイツ	5.99%
SIEMENS ENERGY N AG	ドイツ	5.50%
MUENCHENER RUECKVERSICHERUNGS-GESE	ドイツ	4.33%
RHEINMETALL AG	ドイツ	4.23%
DEUTSCHE BANK AG	ドイツ	3.61%
INFINEON TECHNOLOGIES AG	ドイツ	2.90%
DEUTSCHE POST AG	ドイツ	2.64%

トリゴン ※3	パリミキFOM 浪花おふくろ	
Financials		37.1%
Consumer		21.5%
IT		9.80%
Energy		9.20%
Health Care		6.90%
Industrials		5.60%
Real estate		2.30%
Materials		2.10%
Telecoms		1.20%
Utilities		0.90%

コムジェストEM	浪花おふくろ	
SKハイニックス	韓国	10.37%
デルタ電子	台湾	9.69%
台湾セミコンダクター (TSMC)	台湾	9.43%
テンセント・ホールディングス (騰訊控 股)	中国	5.61%
ディスカバリー	南アフリカ	4.05%
メルカドリブレ	アルゼンチン	4.02%
エーススピード・テクノロジー	台湾	3.73%
キャピテックバンク	南アフリカ	3.70%
シュリラム・ファイナンス	インド	3.52%
B 3	ブラジル	3.36%

チカラ インディアン	パリミキFOM 浪花おふくろ	
HDFC Bank	インド	8.30%
Godrej Properties	インド	7.10%
Kotak Mahindra Bank	インド	6.80%
Eternal	インド	6.50%
Makemytrip	インド	5.70%
Narayana Hrudayalaya	インド	4.90%
ICICI Bank	インド	4.90%
Global Health	インド	4.80%
PB Fintech	インド	4.80%
Delhivery	インド	4.70%

Lumen Vietnam	パリミキFOM	
Masan Group	ベトナム	5.39%
Hoa Phat Group Joint Stock Co.	ベトナム	5.38%
Mobile World	ベトナム	4.79%
GEMADEPT Corporation	ベトナム	4.42%
Baoviet Holdings	ベトナム	4.24%
Vietnam Dairy Product Corp.	ベトナム	3.54%
VietNam JSC Bank for Ind & Trd	ベトナム	3.45%
FPT Corp	ベトナム	3.37%
Vietnam Prosperity Joint Stock Commercial Bank	ベトナム	3.36%
Saigon Thuong Tin CJSBank	ベトナム	3.35%

コンウェーブ・ゴールド	パリミキFOM 浪花おふくろ	
Barrick	カナダ	8.92%
Alamos Gold	カナダ	3.97%
AngloGold Ashanti	イギリス	3.68%
Equinox Gold	カナダ	3.34%
Pan American Silver	カナダ	2.93%
IAMGold Corp.	カナダ	2.73%
Gold Fields Ltd.	南アフリカ	2.66%
Eldorado Gold	カナダ	2.64%
Oceanagold Corp.	カナダ	2.33%
Westgold Resources	オーストラリア	1.98%

コンウェーブ・トランジション	パリミキFOM	
Alcoa Corp.	アメリカ	8.00%
Lundin Mining	カナダ	4.98%
Hudbay Minerals	カナダ	4.66%
Capstone Copper	カナダ	3.93%
Century Aluminium	アメリカ	3.92%
Ivanhoe Mines	カナダ	3.74%
Atalaya Mining	スペイン	3.31%
ERO Copper Corp.	カナダ	3.16%
Norsk Hydro	ノルウェー	2.66%
Pan American Silver	カナダ	2.64%

ピクテ・ゴールド※3	パリミキFOM
金	100%

※3 トリゴン、ピクテ・ゴールドは投資銘柄が公表されていないため、公表されている投資セクター比率を記載しております。

## 波動医学が広げる新しい医療の可能性

### 「生化学」がもたらした近代西洋医学の進化



小学生のころ、私たちは理科を通じて自然の仕組みを一体のものとして学んできました。草木の香りや雲の動き、電池と豆電球、メダカの卵——それらはすべて、ひとつながりの世界として存在していました。しかし中学に進むと、それらは「化学」「生物学」「物理学」という分野に分けて理解されるようになります。

現在、一般的に私たちが「科学的」と認識している近代西洋医学は、その中でも主に「化学」の視点を中心に発展してきました。人体を高度に組織化された化学反応のネットワークとして捉え、分子レベルで解明することで、医療は飛躍的な進歩を遂げてきたのです。つまり、人体を精密な機械のようなシステムとして理解してきたと言えるでしょう。

しかし、人体は単なる機械ではなく「自然の一部」です。実際今の近代西洋医学は様々な限界に直面しており、化学だけでなく、生物学や物理学といった視点を取り入れていくことが、これからの医療の発展にとって重要になってくるのです。

### 飛躍的な進化を遂げつつある「生物学」的アプローチ

21世紀に入って、急激に発展してきたのが生物学の分野です。生物学では、人体を単なる機械ではなく、「多様な生命が共存する動的な共同体」として捉えます。腸内には数十兆もの腸内細菌が存在し、各細胞の中ではたくさんのミトコンドリアがエネルギーを生み出しています。私たちの体の中には、その他にも実に多様で膨大な生命活動が同時に存在しているのです。

この視点に立つと、病気は「壊れた部品」ではなく、体内の生命バランスの乱れとして理解されます。食事や睡眠、ストレス、さらには孤独といった要素も、単なる生活習慣ではなく、医療の中心に関わる重要な要素となります。人間を全体として捉える視点が、ここにあります。

### 量子力学が広げる新しい医療の可能性

さらに今後、大きな広がり期待されるのが物理学の領域です。物理学的な視点では、人体は「情報に導かれた波動エネルギーの流れ」として捉えられます。思考や感情、習慣といったものも、この波動エネルギーの流れの一部として、身体の状態に影響を与えていると考えられます。

私が注目しているのは、「メタトロン」と東洋医学の組み合わせです。メタトロンは、体全体の波動エネルギーの状態を可視化し、調整する機能を持つとされる装置です。一方、東洋医学には「気」という概念があり、これもまた身体を巡るエネルギーとして理解されています。両者は異なる体系に属しながらも、共通する視点を持っているように感じられます。

私自身、この新しい医療の可能性を体験し、その広がりを実感しています。これは従来の医療を否定するものではなく、むしろ補完し、より統合的な理解へと導くものだと確信しています。

今後、医療は「化学」から「生物学」、そして「物理学」へと視野を広げながら、人間をより全体的に捉える方向へ進んでいくと考えられます。その先に、より本質的で人間らしい医療の姿が見えてくるはずですよ。

P.S. この新しい医療にご興味のある人は是非4月18日のたねころ山の健康イベントにご参加ください（運が良ければあと数名参加できるかもしれません）。今回参加できない方も、今後もこのような機会を持つ予定なので、ご期待くださいね。



(株)パリミキホールディングス  
代表取締役会長  
多根 幹雄

## 〈役員異動のお知らせ〉

この度、4月3日付で新たに代表取締役副社長恒吉裕司が着任いたしましたのでご報告いたします。次号の「あいのりMonthly」で改めてご挨拶を掲載させていただきます。

## 略歴

2016年2月	(株)パリミキ取締役
2018年6月	(株)三城ホールディングス※執行役員能力引出し担当
2019年4月	(株)金鳳堂代表取締役社長
2020年4月	(株)パリミキ取締役
2020年7月	(株)三城ホールディングス※執行役員営業担当(現任)
2023年4月	(株)パリミキ代表取締役社長
2026年3月	(株)パリミキ取締役(現任)
2026年4月	当社代表取締役副社長(現任)

※現(株)パリミキホールディングス

## 〈パリミキフェア2026 in 八王子〉

メガネのパリミキが主催する「パリミキフェア2026 in 八王子」に、パリミキアセットもパリミキグループ会社の1社として出展いたします。現地では、資産運用ブースにてファンドのご説明や運用に関するご相談などを、弊社担当者が承ります。会場には、弊社のブースのほか、パリミキグループ会社の商品として、逸品のメガネフレームや高機能累進レンズをはじめ、新作のジュエリーや限定アイテムなども多数展示しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

## 日時

4月14日(火) 10:00~19:00

4月15日(水) 10:00~18:00

## 会場

会場：東京たま未来メッセ(1階 展示室ABC)

住所：八王子市明神町3丁目19-2

(JR八王子駅北口から徒歩5分)

(京王線京王八王子駅3番出口から徒歩2分)

参加費：無料



イベントのお申込みにつきましては、HPでご案内いたしております

## 「取引残高報告書(定期交付)」・「ご投資状況のお知らせ」の発送について

「取引残高報告書(定期交付)」・「ご投資状況のお知らせ」を電子交付、郵送いたしました。

「取引残高報告書(定期交付)」は四半期毎に作成され、その期間のお取引を記したものです。

今回は2026年1月～3月末までにお取引（売買等）があったお客様および期間中にお取引がなくても残高がある場合には、最後のお取引から1年が経過したお客様が送付・電子交付の対象となっております。

## GWに関わる解約（換金）スケジュールについて

① 4月22日（水）15:30までのファンド解約（換金）ご注文 ⇒ 4月30日（木）のご送金

② 4月23日（木）15:30までのファンド解約（換金）ご注文 ⇒ 5月1日（金）のご送金

③ 4月24日（金）15:30までのファンド解約（換金）ご注文 ⇒ 5月7日（木）のご送金

### 2026年4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22 ①	23 ②	24 ③	25
26	27	28	29	30		

### 2026年5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

### ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

**投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者（投資者）の皆様**に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

### ファンドにかかわる費用

当社が扱う投資信託に、購入・換金手数料および信託財産留保金はありません。

### 当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は株式会社パリミキアセットマネジメントが運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡しますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当社でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料中に示された数値は、作成基準日現在において入手可能なデータを参照し、弊社にて計算しております。

### 毎月つみたてスケジュール

次回引落日は、**2026年5月7日（木）**です。

2026年5月分金額変更・中止・再開締切日・・・

**4月20日（月）**

2026年6月分新規・口座変更締切日・・・

**4月28日（火）**

**※GWに伴い、締切日が通常より早くなっておりますのでご注意ください。**

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話・マイページ上（再開を除く）でも承っております。再開につきましては、書類でのお手続きとなりますので、お電話・マイページ上・ホームページ上にて用紙をご請求ください。

株式会社パリミキアセットマネジメント  
お客様サポートチーム

（受付時間：平日9:00～17:00）

お客様専用通話料無料ダイヤル:0800-5000-968

E-mail: [support@pmam.co.jp](mailto:support@pmam.co.jp)

